

3 会津線・会津鬼怒川線利用に関するアンケート調査と結果

両鉄道の会津地域⇄首都圏間における利用者数は、両鉄道の業務資料により把握することができますが、その利用者の特徴や利用目的、県経済への影響などについては従来の業務資料や統計資料では把握することはできません。

そこで、両鉄道の会津地域⇄首都圏間における利用実態と鉄道利用者の旅行内容及び県内での消費行動把握することを目的とした両鉄道利用に関するアンケート調査を行いました。

調査は平成19年8月から10月にかけて計3週間、福島県会津線等対策協議会により行われ、両鉄道の協力によって列車内において乗客全員に対する口頭による簡単なヒアリング調査と対象者に対する『会津線・会津鬼怒川線利用に関する調査』調査票の配布を行いました。

アンケート調査の概要については、50ページからの「参考 アンケート調査の概要」にまとめていますので、そちらをご覧ください。

アンケート調査の様子（平成19年8月28日）



(1) ヒアリング調査

① 調査の目的・方法

ヒアリング調査は、会津地域⇄首都圏間における両鉄道利用者の誘客・送客の割合を把握し、誘客数・送客数を推計するために行いました。

会津地域⇄首都圏間における両鉄道利用者数は業務資料により把握できますが、その利用が旅行目的地に対して往路なのか復路なのかを知ることはできません。例えば、同じ会津に向かっている列車の乗客であっても、観光のために会津地域へ向かっているのか（「誘客」）、逆に首都圏での用事を終えて居住地である会津地域に帰ってきているのか（「送客」）については、資料上の数値だけでは把握することができません。

利用者の居住地を調査して誘客（県外居住者）と送客（県内居住者）の割合を知ることにより、誘客数・送客数の推計が可能となり、さらに細かい利用状況を把握することができるようになります。

ヒアリング調査は、両鉄道を乗り継いで利用する乗客に対して居住地が県内であるのか県外であるのかを口頭で質問し、回答していただく方法で行いました。居住地が県外であれば「誘客」、県内であれば「送客」としています。（調査の概要については50ページを参照）

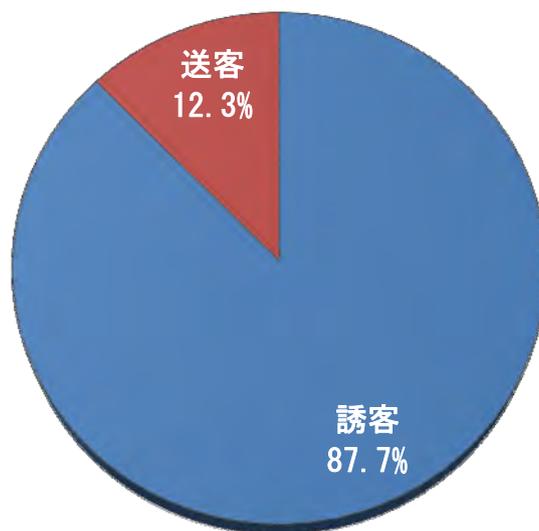
② 調査の結果

計 3,056 人に回答いただき、うち県外居住者（誘客）が 2,679 人、県内居住者（送客）が 377 人で、誘客：送客は 87.7：12.3 となっています。

会津地域⇄首都圏間利用者の9割近くが「誘客」となっており、会津地域をはじめとした県内を目的地とした旅行者に多く利用されていることがわかります。

平成18年度の会津地域⇄首都圏間利用者数が計 233,887 人ですので、誘客数 205,034 人、送客数 28,853 人と推計されます。

第6図 誘客・送客割合



(2) 調査票調査 (『会津線・会津鬼怒川線利用に関する調査』)

① 調査の目的・方法

調査票調査は、会津地域⇄首都圏間の移動に両鉄道を利用した県外旅行者の福島県内消費による経済波及効果計測の基礎資料とするために行いました。

調査票調査は両鉄道を利用した旅行者の県内における消費項目別消費支出額を把握し、経済波及効果計測のための基礎資料とすることを最大の目的としていますが、利用者特徴をつかむため、年代、性別、居住地などの属性について、また、旅行目的、会津地域内での立ち寄りスポット、県内で利用した交通機関、旅程などの質問も併せて行っています。(調査の概要については50ページを参照)

ヒアリング調査において居住地を「県外」と回答した誘客2,000名に対して調査票を配布、後日郵送により回収を行い、集計を行いました。

② 調査の結果

回答数は計673通で、回収率は33.7%となっています。

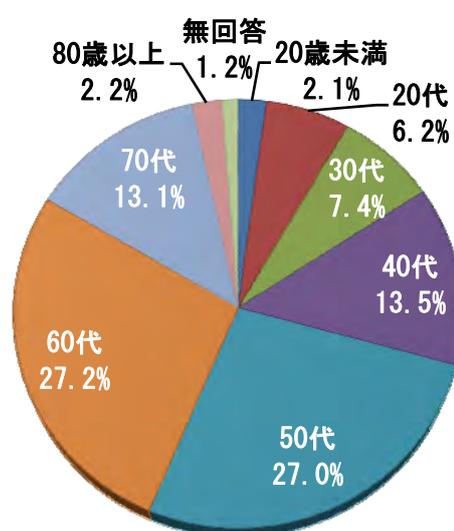
以下、本文中においてアンケート対象者を「会津⇄首都圏間県外利用者」又は単に「利用者」とします。

ア 年代 (問1)

利用者の半数が50代、60代

会津⇄首都圏間県外利用者で一番多いのは「60代」(構成比27.2%)で次いで「50代」(同27.0%)、「40代」(同13.5%)、「70代」(同13.1%)となっており、中高年の利用が多いことがわかります。

第7図 利用者年代割合

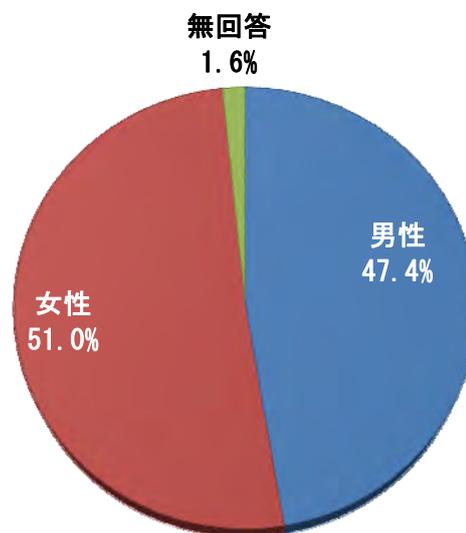


イ 性別（問2）

利用者の男女割合はほぼ半々

会津⇄首都圏間県外利用者の性別の割合は「女性」が 51.0%、「男性」が 47.4%となっており、ほぼ半数ずつとなっています。

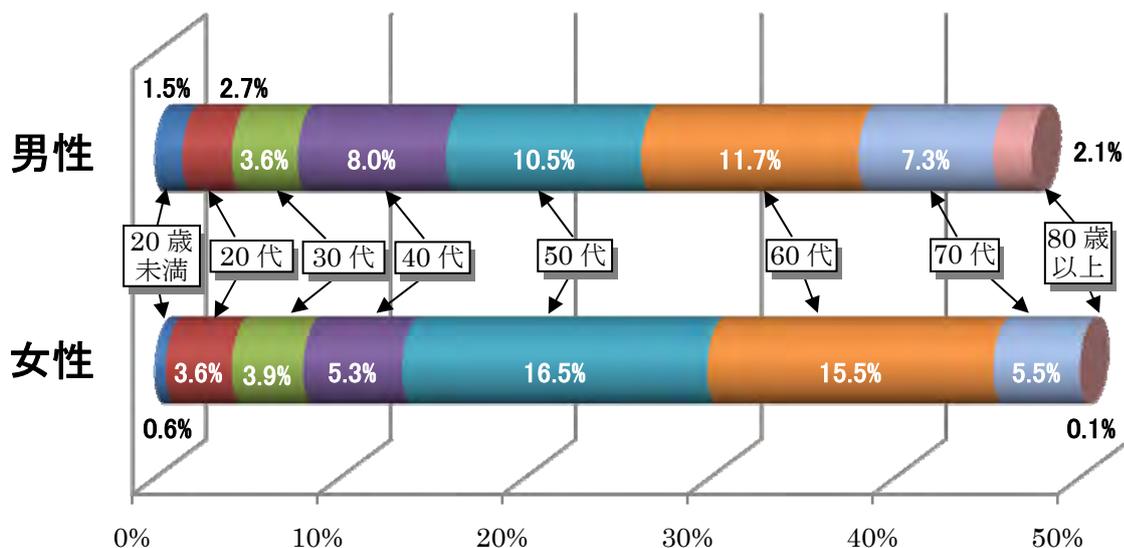
第8図 利用者男女割合



50代、60代女性が全体の3割

男女別の年齢構成をみると、「50代女性」（構成比 16.5%）と「60代女性」（同 15.5%）で全体の3割を占めています。

第9図 利用者性別年齢構成比



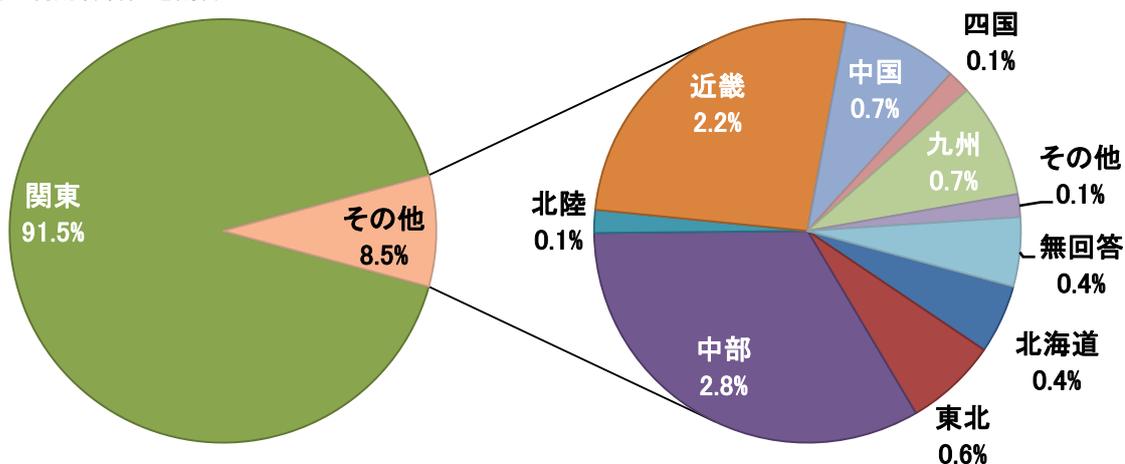
ウ 居住地（問3）

利用者の9割以上が関東地域居住者

会津⇄首都圏間県外利用者の居住地は「関東地域」が最も多く、全体の9割以上を占めています。次いで「中部」（構成比2.8%）、「近畿」（同2.2%）となっています。

関東地域居住者以外の利用は少なく、遠距離から乗り継いで両鉄道を利用する旅行者は少ないものと思われます。

第10図 利用者居住地割合



エ 利用目的（問4）

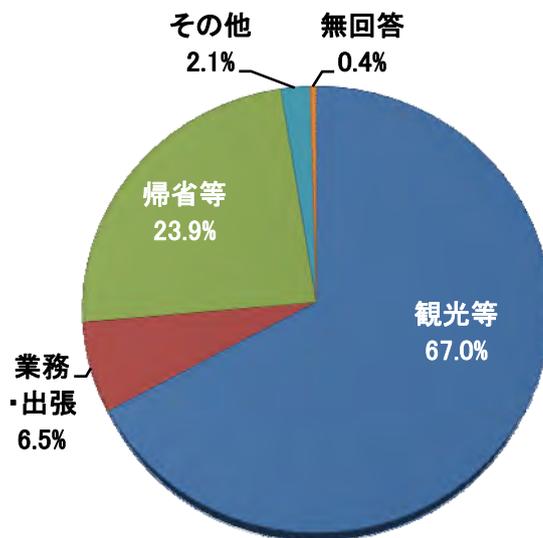
観光等目的での利用が6割超

会津⇄首都圏間県外利用者の目的は「観光・レクリエーション」（構成比67.0%）が一番多く、次いで「帰省・知人訪問・結婚式・葬式等への参加」（同23.9%）となっています。逆に「業務・出張」（同6.5%）での利用は少数となっています。

「その他」（同2.1%）の内訳をみると、「介護」が約半数を占めています。故郷の親を介護することは帰省にも該当しますので、「帰省等」の回答の中にも、介護を主目的としたものが少なからず含まれているのではないかと考えられます。

今後は介護を目的とした利用者が増えることが大いに予想され、両鉄道の有用性はますます大きくなるものと考えられます。

第11図 利用目的割合



オ 目的地（問5）

利用者の9割が会津地域目的

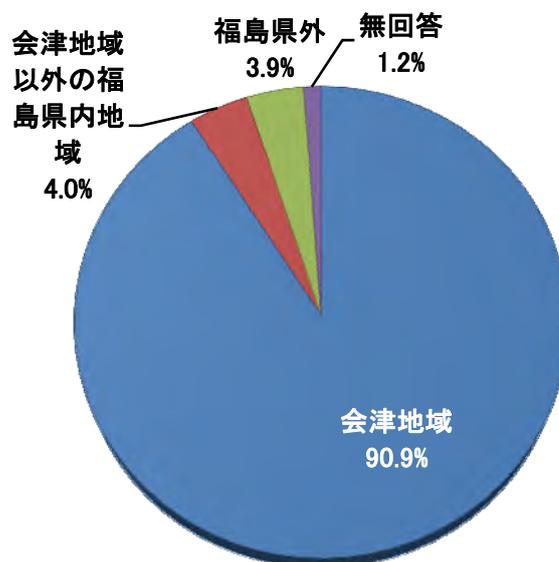
会津地域を主な目的地としている利用者が全体の9割以上を占め、会津地域以外を主な目的地とした利用者は1割未満となっています。

会津鉄道はJRと野岩線は東武鉄道と乗り入れを行っていますので、両鉄道を経由して会津地域外へ移動することは比較的簡単にできます。鉄道のみ利用するのではなく、バスなどの交通機関を利用することによっても、両鉄道を経由して会津地域外へ移動することは可能です。

しかし、両鉄道は会津地域を目的地とした旅行に多く利用されており、会津地域を超える旅行の移動経路の一部として利用されることは非常に少ないと言えます。

ウ、エ、オから読み取れる利用者の特徴から、両鉄道は首都圏と観光地会津・故郷会津を結ぶ幹線交通機関であると言えます。

第12図 利用目的地割合



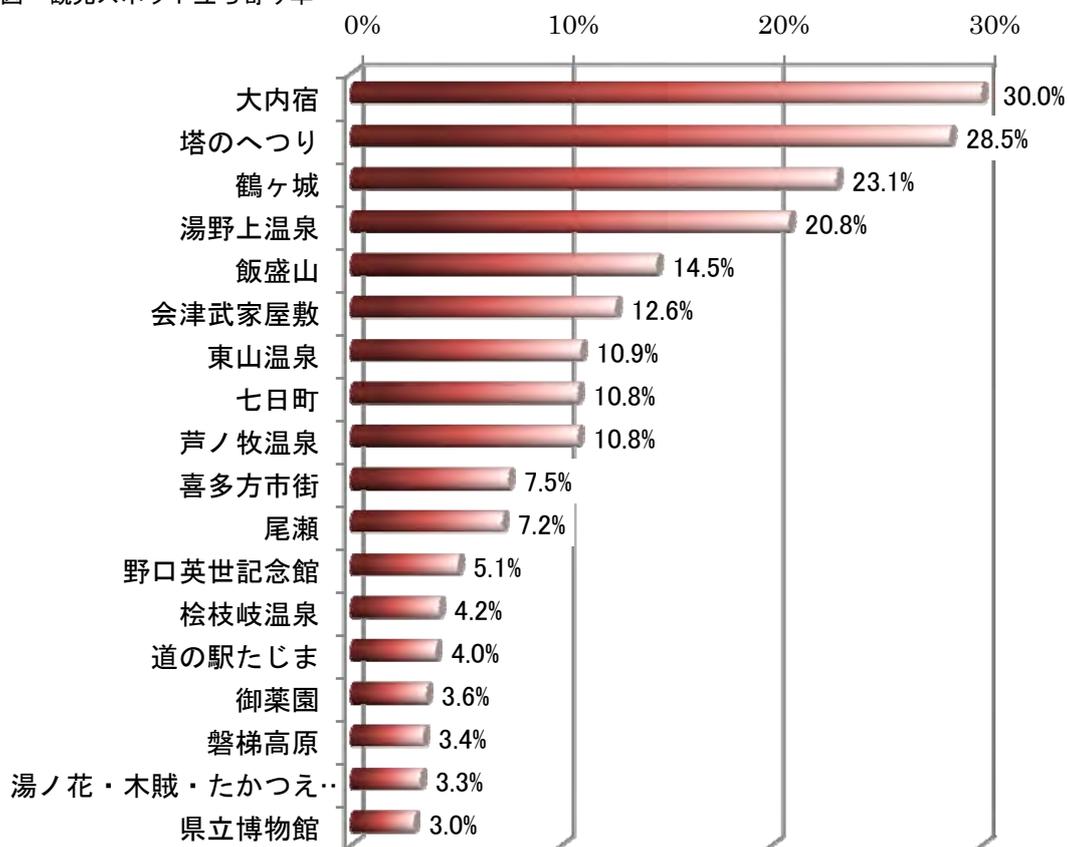
日本で唯一の茅葺き屋根の駅舎を有す「湯野上温泉駅」

カ 立ち寄りスポット（問6）

利用者の約3割が大内宿、塔のへつりを観光。鶴ヶ城、湯野上温泉も2割を超える人々が観光

会津⇄首都圏間県外利用者の会津地域の主な観光スポット※への立ち寄り状況を立ち寄り率（立ち寄り数／有効標本数）でみてみます。「大内宿」（立ち寄り率 30.0%）が最も立ち寄り率が高く、次いで「塔のへつり」（同 28.5%）となっており、利用者の約3割が立ち寄っています。次いで立ち寄り率が高いのは「鶴ヶ城」（同 23.1%）、「湯野上温泉」（同 20.8%）、「飯盛山」（同 14.5%）、「会津武家屋敷」（同 12.6%）などとなっています。

第13図 観光スポット立ち寄り率



「その他」としては、七ツ岳、会津駒ヶ岳、会津朝日岳といった山々への登山を目的としている回答も多く、尾瀬への玄関口と並び南会津の山々への玄関口としても利用されていることが分かります。

※ 調査表の項目として挙げている会津地域の主な観光スポットは、福島県商工労働部観光グループでまとめている観光客入込状況の調査集計地点を基にしています。

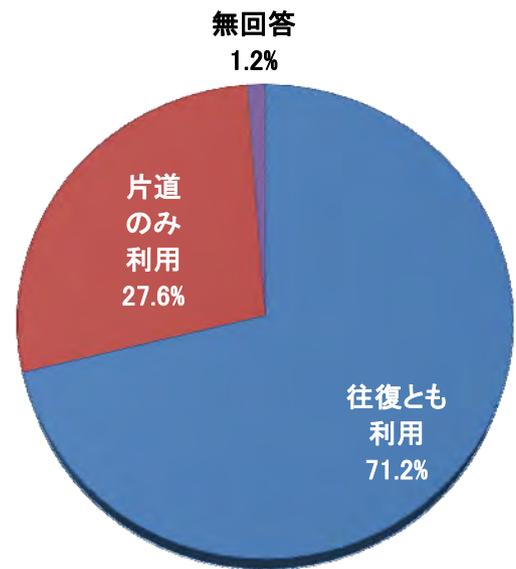
キ 利用経路（問 7）

第 14 図 利用経路選択割合

利用者の 7 割が往復での利用

会津⇄首都圏間県外利用者の 7 割以上が往復とも両鉄道を利用しています。

一度の旅行における平均片道利用回数は、1.72 回となっています。



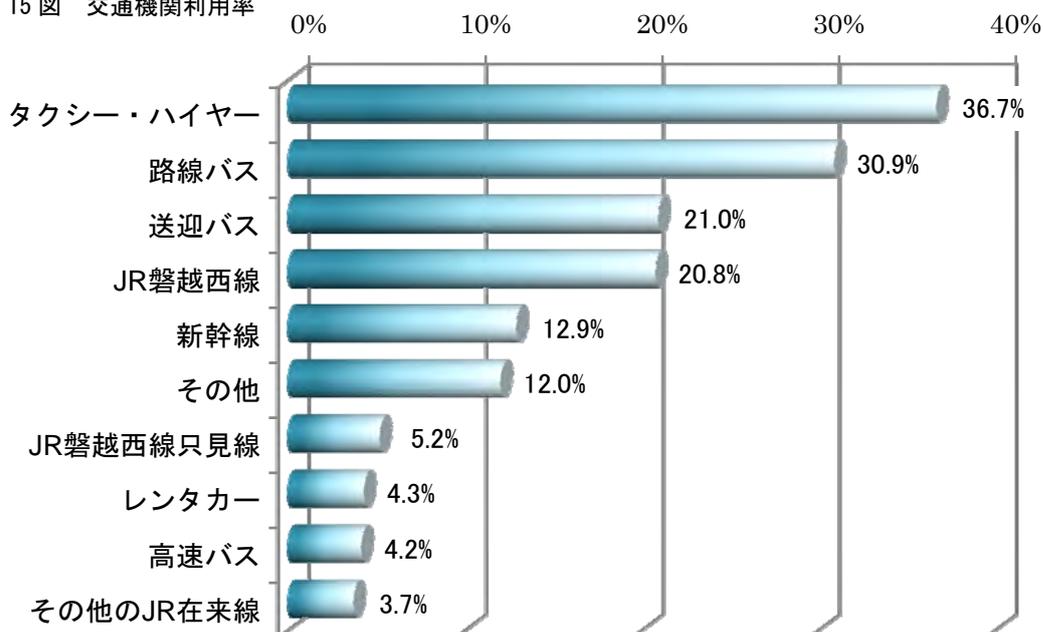
ク 両鉄道以外の利用交通機関（問 8）

3 割以上がタクシー・ハイヤーや路線バスを利用

両鉄道以外の利用交通機関で最も利用率（利用者数／有効標本数）が高いのは、タクシー・ハイヤー（利用率 36.7%）で、次いで路線バス（同 30.9%）、送迎バス（同 21.0%）、JR 磐越西線（20.8%）となっています。

タクシー・ハイヤーは大内宿など駅からの移動手段が少ない観光地への移動に多く利用されていると考えられます。バスは会津市街地を周遊する「ハイカラさん」「あかべえ」や会津地域の観光地を巡る「しもごうベルトライン号」「大内宿こぶしライン号」などが、多くの利用されているものと考えられます。

第 15 図 交通機関利用率

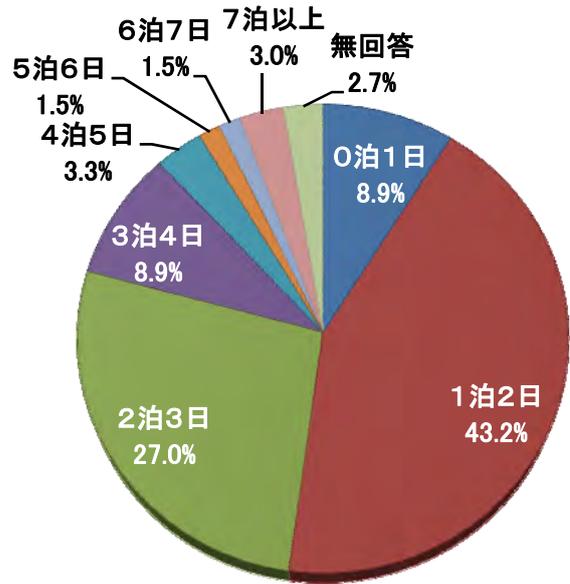


ケ 宿泊数について（問9）

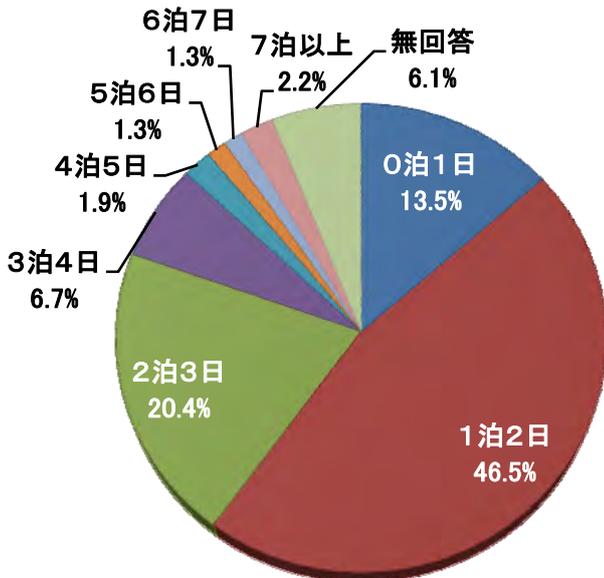
宿泊数は1泊が最多

利用者の旅行全体の宿泊数は1泊2日が構成比43.2%で最多となっています。次いで2泊3日(同27.0%)、日帰り(同8.9%)となっています。3泊を超える中長期の滞在割合は18.1%となっています。

第16図 旅行宿泊数



第17図 福島県内宿泊数

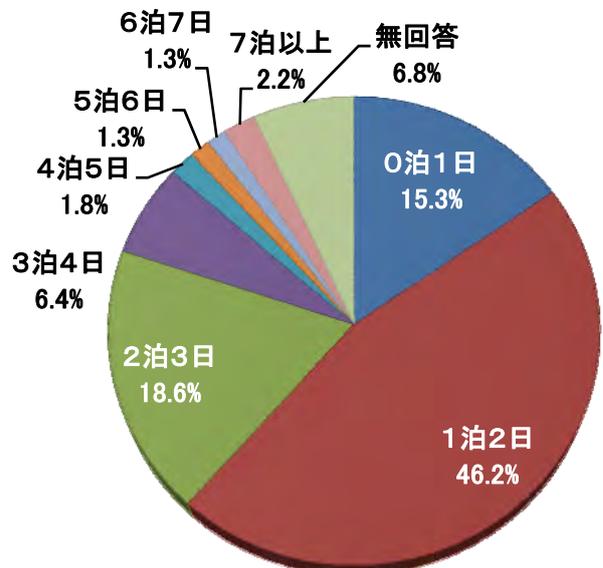


利用者の県内での宿泊数も1泊2日(同46.5%)が最多となっています。旅行全体と比べて日帰りや1泊旅行の短期滞在の割合が増え、3泊を超える中長期の滞在割合は13.5%と減っています。

利用者の会津地域内での宿泊数も1泊2日(同46.2%)が最多となっています。福島県内宿泊数と比べると日帰りの割合は増えていますが、中長期の滞在については割合がほぼ同じとなっています。

このことから、会津⇄首都圏間県外利用者は、会津地域とその他の福島県内地域を宿泊しながら巡るような周遊旅行を行ってはいないということがわかります。

第18図 会津地域内宿泊数

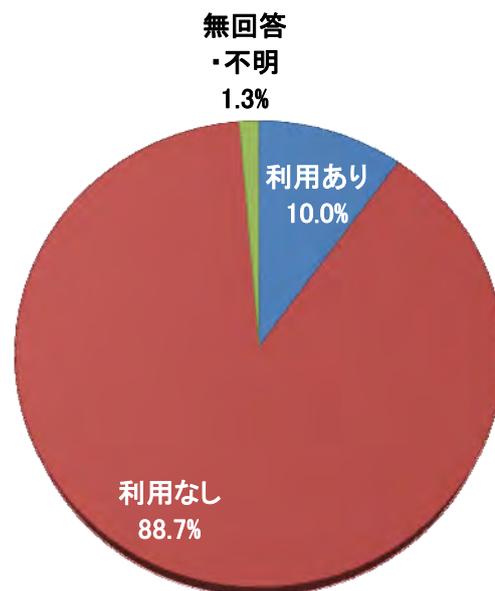


コ パックツアー・団体旅行※（問 10, 11, 12）

1 割がパックツアー等を利用

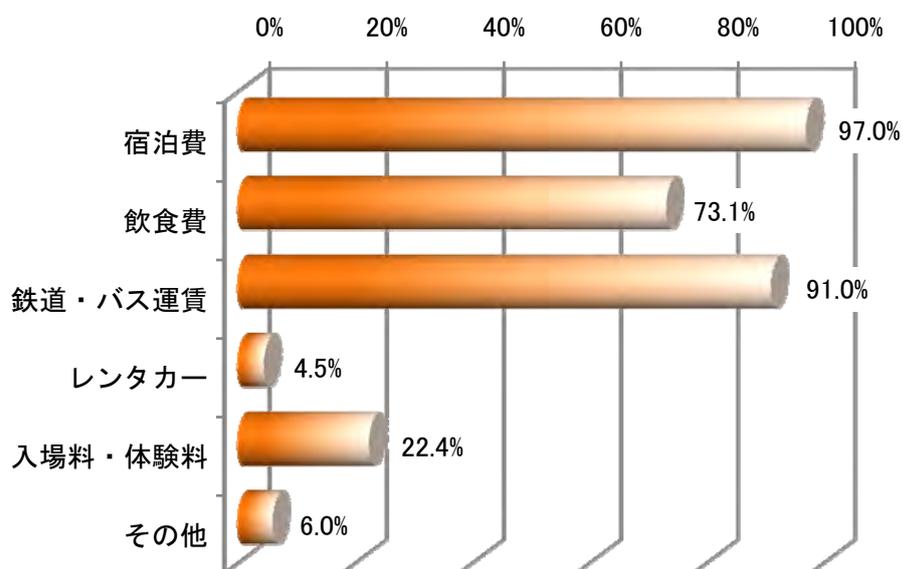
パックツアー・団体旅行の利用者は全体の1割となっています。利用者の多くは個人的に宿泊先、交通手段を確保しており、団体での利用は限られているということがわかります。

第 19 図 パックツアー利用割合



内容は、宿泊と鉄道・バス等の運賃を含んだものが多くなっています。一方、入場券・体験料が含まれているものは2割程度となっています。

第 20 図 パックツアー・団体内容割合



※ パックツアー・団体旅行については、その内容に含まれるものごとの費用を推計することは非常に困難となります。そこで今回は、パックツアー・団体旅行に含まれる項目を利用者ごとに確認し、消費項目別平均消費支出額を計算する際にパックツアー・団体旅行内容に該当する項目について集計対象から外しています。

サ 消費項目別県内消費支出額（問13）

一人当たりの平均県内消費支出額※1は21,966円

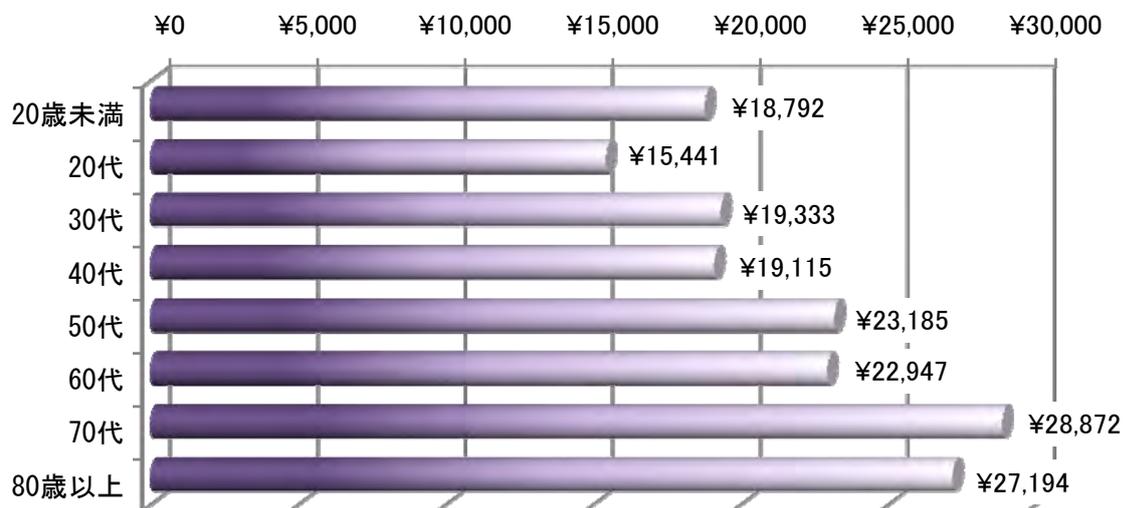
第21図 消費項目別平均県内消費支出額

		消費項目	購入者 平均消費支出額※2	全標本 平均消費支出額※3
問 1 3	交通費	1.2 新幹線・鉄道・モノレール・ロープウェイ	¥2,404	¥2,404
		3 バス	¥1,607	¥529
		4 タクシー・ハイヤー	¥3,248	¥1,287
		5 船舶(フェリー・観光船など)	¥1,344	¥19
		6 レンタカー代	¥8,027	¥286
		7 ガソリン代	¥2,780	¥180
		8 駐車場・有料道路料金	¥2,210	¥85
		9 宿泊費(キャンプ場使用料を含む)	¥14,590	¥8,364
		10 食事・喫茶・飲酒	¥3,652	¥2,728
	土産代・買物代	11 農産物(野菜・果物・花など)	¥2,547	¥602
		12 農産加工品(ジャム・ソーセージ・乳製品など)	¥2,671	¥351
		13 水産物(鮮魚・魚介類など)	¥1,603	¥20
		14 水産加工品(干物・練製品など)	¥1,730	¥115
		15 菓子類(地元銘菓など 地元製造のもの)	¥3,088	¥1,549
		16 菓子類(地元銘菓以外のスナック菓子など)	¥915	¥82
		17 お弁当・その他食料品	¥1,718	¥485
		18 飲料・酒(地酒など 地元製造のもの)	¥2,370	¥614
		19 お弁当・飲料・酒・その他食料品(地元製造品以外のもの)	¥1,340	¥323
		20 繊維製品(衣料品・帽子・ハンカチなど)	¥3,308	¥230
		21 靴・鞆類	¥1,050	¥2
		22 陶磁器・ガラス製品	¥4,456	¥106
		23 漆器など	¥2,734	¥165
		24 絵葉書・本・雑誌など	¥1,204	¥93
		25 木製の小物・家具など	¥1,765	¥117
		26 医薬品・化粧品・ハミガキ・シャンプーなど	¥1,841	¥44
		27 フィルム	¥1,151	¥22
		28 電気製品・電池	¥100	¥0
		29 カメラ・時計・メガネ	¥1,025	¥3
		30 その他の製造品(文具・玩具など)	¥2,664	¥211
		入場料・施設使用料	31 日帰り温泉・温浴施設など	¥1,008
32 神社仏閣などの拝観料	¥1,210		¥129	
33 美術館・博物館・水族館などの入館料	¥827		¥145	
34 ゴルフ場・テニスコートなどの使用料	¥4,250		¥13	
35 展示会・コンベンションなどの参加料	¥996		¥8	
36 観光農園	¥500		¥1	
37 その他入場料・施設使用料	¥2,580		¥66	
その他	38 ガイド料	¥3,130	¥25	
	39 レンタル料(自転車・キャンプ用品など)	¥800	¥4	
	40 マッサージ	¥2,923	¥74	
	41 写真撮影代	¥833	¥4	
	42 郵便・電話通話料	¥399	¥20	
	43 宅配便	¥2,002	¥282	
	44 その他	¥3,975	¥25	
			一人当たり平均消費総額	¥21,966

シ 属性別にみる平均県内消費支出額

年代、性別、旅行目的の3つについて属性別の平均県内消費支出額をみてみます。

第22図 年代別一人当たり平均県内消費支出額



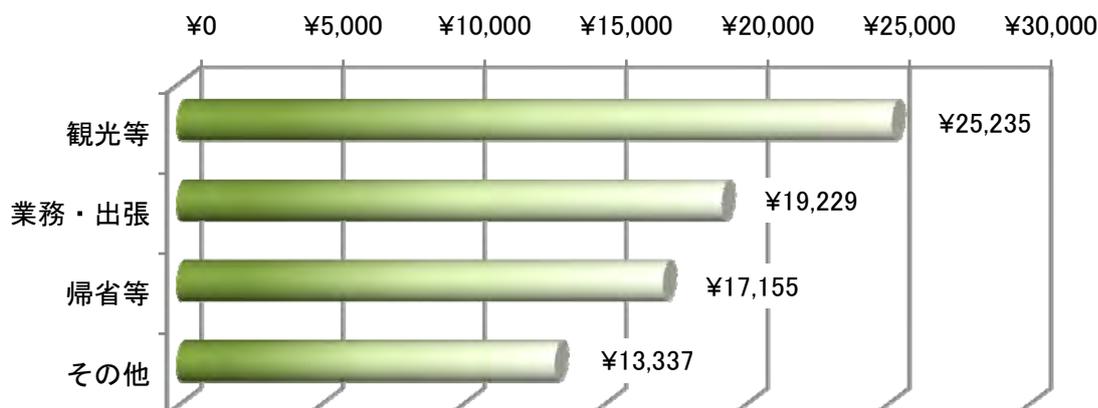
年代別の一人当たり平均県内消費支出額をみると、高い年代で消費支出額が高くなる傾向があります。

第23図 男女別一人当たり平均県内消費支出額



性別の一人当たり平均県内消費支出額をみると、「女性」の消費支出が「男性」の消費支出より約1割多くなっています。

第 24 図 旅行目的別一人当たり平均県内消費支出額



利用目的別の一人当たり平均県内消費支出額をみると、「観光・レクリエーション」が一番高く次いで、「業務・出張」、「帰省・知人訪問・結婚式・葬式等への出席」となっています。

属性別に平均県内消費支出額をみると、会津地域⇄首都圏間県外利用者の中でも「中高年」「女性」「観光目的」に該当する利用者の消費支出額が大きいことがわかります。

調査票調査結果によると、年齢別では50代以上が全体の約7割、特に「50代、60代女性」が全体の1/3を占めており、利用目的別では「観光目的」が全体の2/3となっています。

このことから「中高年」「女性」「観光目的」は両鉄道の会津地域⇄首都圏間県外利用者に占める割合が高く、県内での消費も旺盛であることがわかります。両鉄道による誘客数を増やし、より大きな経済効果を得るためには、「中高年」「女性」「観光目的」を中心とした利用者の需要に応じていくことが非常に重要となります。

※1 消費項目別県内消費支出額の計算については、消費項目ごとにそれぞれ平均県内消費支出額を計算しています。例えば、観光目的で県内宿泊があるにもかかわらず宿泊費の記入がない場合などには、記入漏れの可能性もあるため宿泊費の項目においては集計対象外としています。同様に他の項目でも支出の有無がはっきりしないものについては集計対象外としています。パックスツアー・団体旅行はその内容に含まれる消費項目について集計対象外としています。したがって、消費項目別平均県内消費支出額については、消費項目によって集計対象数が若干異なっています。一人当たり平均消費支出額は各項目別の平均県内消費支出額の合計額としています。

※2 該当する消費項目を購入した利用者の平均県内消費支出額です。

※3 該当する消費項目の購入の有無に関係なく調査回答者全体に対する平均県内消費支出額です。購入者平均県内消費支出額と比べてみると、回答者全員が購入している1,2は同額となりますが、その他の消費項目については購入していない利用者もいるため、消費支出額は小さくなっています。